

今月19人感染 注意を

新型コロナ県、対策徹底

県は12、13両日で県内在住の8人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。すでに発表された感染者とつながりがある人が多く、県内で感染が確認されたのは累計で83人になった。7月に入ってから計19人の感染が判明しており、県の担当者は「ウイルスがさらに広まらないように対策を徹底する」としている。

「発熱時通勤通学控えて」

8人の内訳は▽10日に感染がわかった和歌山信愛大学の女子学生（和歌山市内在住）と同居する3人（50歳代男性、40歳代女性、女子中学生）▽10日に感染がわかった会社員男性（和歌山市内在住）とつながりがある4人（同居の50歳代女性、

のため臨時休校した上で、同学年の生徒約70人を検査し、1週間自宅待機にする。小学校については市が今後対応を検討する。

一方、湯浅保健所管内の

抗体検査 全職員が陰性

くしもと町立病院 独自実施

くしもと町立病院（串本町）は13日、全職員156人の血液を調べた結果、新型コロナウイルスの感染歴を示すたんぱく質「抗体」は検出されず、全員陰性だったと発表した。

調査は6月中旬から下旬にかけて20〜60歳代の医

教員男性は8日以降、生徒との接触がないという。同僚の教員については接触があったかどうかを調べ、必要があれば検査する。授業は通常通り行うという。

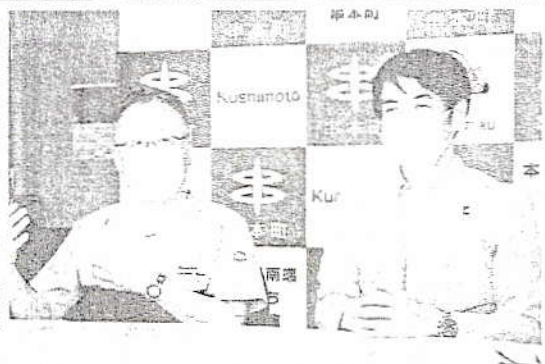
県によると、感染者の中には発熱などの症状が出てから学校や勤務先を訪れている事例があるといい、県福祉保健部の野尻孝子技監は13日の記者会見で、「発熱があれば通学や通勤は控えてほしい」と改めて注意を喚起した。

師、看護師、事務職員ら全スタッフを対象に実施。検査数は同町の人口の1%に当たり、同病院は「ウイルスの蔓延はなく、町内の感染者はほぼゼロと推察される」としている。

同病院では感染拡大を受け、1月下旬に発熱外来を

設置。すべての来院者にマスクを配布し、面会制限を徹底するなどしてきた。一方、感染リスクへの不安などから4月以降は外来患者が対前年比で約20%減少しているという。

町役場で田嶋勝正町長と会見した同病院の竹村司・管理者は「慢性疾患がありながら受診を控えると、持病の悪化につながる。今回の結果を踏まえ、高齢者にも安心して受診してもらいたい」と話している。



抗体検査の結果について発表するくしもと町立病院の竹村司管理者（左）と田嶋町長（串本町で）